

出張報告

報告日 令和4（2022）年9月20日

会派名	公明党
報告者氏名	若井 恵子、真貝 維義
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	札幌市民防災センター視察
日時	令和4年7月29（金） 10:00 ～ 11:30
場所 （会場）	札幌市民防災センター（北海道札幌市白石区南郷通6丁目北2-1）
調査項目等	各種災害の模擬体験設備を備えた防災施設
概要	<p>「概要」</p> <p>札幌市民防災センターは札幌市白石消防署に隣接し設置された建物で、平成15年3月に開設された。コンセプトは「見て触れて体験し学ぼう」であり、さまざまな災害の模擬体験をしながら防火、防災に関する知識や災害が発生した時の行動を学ぶための施設である。以下の体験コーナーで体験を行った。</p> <p>「災害バーチャル体験コーナー」 津波、土砂災害や都市型水害など3D映像でのバーチャル体験</p> <p>「地震体験コーナー」 過去に起こった震災での震度7の体験</p> <p>「消火体験コーナー」 スクリーンに映し出された火災の映像に対して消火器を確実に操作して消火する体験</p> <p>「煙避難体験コーナー」 実際の火災と同様に停電を想定し、暗くなっている、煙を充満している建物の一階の中から避難する体験</p> <p>「暴風体験コーナー」 3D眼鏡と風速10mの組み合わせにより、災害現場の中にいるような臨場感を体験しながら暴風災害の危険性を体験</p> <p>その他、消火、救急、消防など消防のさまざまな仕事の紹介、活動服、資機材の展示など、子どもから大人まで防災の意識啓発に寄与している。</p>



所感等

- わが国では近年、大規模な自然災害が相次いでいる。特に、平成 28 年（2016 年）熊本地震以降、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風、令和 2 年 7 月豪雨など、ここ数年はほぼ毎年のように大規模災害が発生している。令和 3 年 7 月 1 日からの大雨では、静岡県熱海市で大規模な土石流が発生し、多くの犠牲者が出る痛ましい災害となった。本年、8 月 3 日 4 日豪雨災害では、全国で被害が発生し県内でも村上市・胎内市・関川村などで大きな被害が出ている。近年の災害は多発化・激甚化である。

令和 2 年度より防災教育が義務化をされ、国土交通省も防災意識の向上に取り組んでいる。札幌市民防災センターは、「見て触れて体験し学ぼう」がコンセプトであり、様々な災害の模擬体験をしながら防火、防災に関する知識や災害が発生した時の行動を学ぶための施設である。新潟県ではこれまで地震や水害等の災害が多発をしており、柏崎市においても中越沖地震や水害等の災害が発生している。防災意識の向上を目指しさらなる取り組みが必要と考える。また、全国には札幌市民防災センターのような、防火、防災に関する体験学習があり、ぜひ柏崎市に原子力を含む防災センター誘致を提案する。（真貝）

- 地球温暖化により、世界全体で大きな自然災害が起こっている。市においてはいつどのような災害が起こるとも限らない。市民全体として日頃からの防災意識の向上に取り組む必要性がますます高まっている。

今回、防災センターを設置している札幌市の取り組みを学ぶ機会を得たが、中越大震災、中越沖地震、水害を経験した柏崎において、このようなコンセプトの施設はない。災害に備えるためには災害について知ること、災害について考えること、そして行動することが必要である。過去の出来事で終わらせるのではなく、将来に向けて防災意識を高めていく必要がある。市民活動支援センター「まちから」には中越沖地震の展示コーナーがあるが、災害の模擬体験を行える施設の設置の必要性を感じた。（若井）